

2021 年 4 月 6 日

学校法人 近畿大学
理事長 世耕 弘成 殿

近畿大学教職員組合
執行委員長 阪本 洋三

文芸分会交渉要求書

近畿大学教職員組合（以下、本組合）は、学校法人近畿大学（以下、貴法人）に対し、文芸学部に関わる以下の事項について要求する。

1. 授業形態・感染対策

（1）新年度の授業形態について、原則対面という全学的な方針が出ており、それが前提となることはやむを得ないとしても、学生・教員双方の安全対策、及び学生の学修効果に十分配慮し、状況に応じてハイブリッド方式で行うことが学部の裁量で可能であることを確認したい。なお、ハイブリッドの形態は、3月22日のワークショップで示された4類型をいずれも認め、柔軟な対応が認められるものとする。

（2）教員の体調不良や、濃厚接触の疑いがある場合等は、学部の裁量で授業実施に関する柔軟な対応（例えば、予防として一時的にオンラインに切り替える等）を検討すること。3月30日付の「授業方法（対面授業）を配慮する指針」で示された基準では、多くの感染リスクが見過ごされ、手遅れになるケースが多くなるであろう。

（3）補講については、学部の裁量でオンデマンド授業を認めること。

（4）学生については、「令和3年度の大学等における授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策等に係る留意事項について（周知）」（2文科高第1125号・令和3年3月4日）の「面接授業での実施を原則とする授業科目においても、基礎疾患を有するなど重症化のリスクが高い学生、通学のために要する移動距離が長い学生、重症化リスクが高い高齢者と同居している学生など、面接授業の実施について不安を有する者に対しては、自宅での遠隔授業の受講を認めている例があることも踏まえ、学生の状況に可能な限り配慮した学校運営に努めること」に則した対応を徹底すること。

（5）全学的に種々の感染対策を講じているものの、予算措置が間に合わない等の理由で十分でない事例が多々見受けられる。文芸学部においては、全ての教室の座席間および教壇にアクリル板を設置することを要求する。なお、芸術学科においてはコロナ禍以前から、実習教室の不足を申し入れていたにもかかわらず、改善が見られていない中、インフラ整備抜きでの対面授業の再開は「密を避ける」という観点からも非常に難しい。予算措置が間に合わないのであれば、今年度予算の残金を充てる等、柔軟な運用により、大至急、安全で上質な

実習教室の増設を要求する。

(6) ハイブリッド授業の4類型のうち、対面授業をZoomで配信するハイフレックス型授業は、授業を行う教員の負担が極めて重く、また、授業の運営に支障が出る可能性も高く、教員と学生との双方に甚大な不利益が及ぶであろうことが容易に予想できる。そういう事態を回避するためには、貴法人がサポート要員を手配すべきであるが、人員確保には時間がかかるであろうことを考えると、当面はTAの増員によって対応することが現実的である。速やかにTA増員の手配を進めることを要求する。

2. 教学事項

(1) 大学院の授業科目の開講可否の決定は教員の専権事項である。にもかかわらず、文芸学部では事務部から「受講学生の少ない科目を不開講とせよ」等の指示がなされることがある。このような不当な介入は断じて認められない。

(2) 貴法人は2016年に吉本興業と包括連携協定を締結し、各種企画を実施しているが、教学事項に吉本興業が関わる場合には教員との慎重な議論が必要であることは言うまでもない。例えば授業科目の提供等において、教員の意向を無視して吉本興業が教学事項に介入することのないよう要求する。

3. 学生対応

(1) 文芸学部事務部において、学生による成績評価に関わるクレームを、ハラスメント窓口に繋いだケースがあった。もちろん学生が本心からハラスメントを告発しようとしているのであれば、それは正当な行為であるが、クレーム内容をよく聞き取りもせず、単なる成績評価への不満をハラスメント調査の対象とすれば、学生本人が考えてもいなかった苦境に本人を陥れることになりかねない。そもそも成績評価については既存の成績照会制度に窓口を一本化しているはずであり、それ以外の対応を許すことは教員の負担増加になるだけでなく、学生間の公平性を毀損することにもなる。今後は、成績評価への不満とハラスメントとを適切に見極めて対応してほしい。こうしたことをしっかり行なわないのであれば、事実上、無償の奉仕活動として行っている学部ハラスメント相談員の時間・能力リソースが大量に消耗されるだけでなく、成績評価という教員にとって不可欠な業務の遂行すら行えないこととなり、学部運営が立ちゆかなくなるのは明らかである。

(2) 前記、成績照会制度にしても、その運用が恣意的となっているケースがある。当該制度は、学生からの照会→教員の回答という一往復で完結するものであり、再度の照会があったとしても教員には対応義務はなく、事務部も対応しないことになっているはずである。しかし、学生や保護者がそれに納得せず、教員と面会を求めたり、法的措置を示唆したりするという事例が全学的に確認されている。文芸学部においても、こうした成績に関するクレームに教員を対応させないよう、成績照会制度への一本化と例外的措置を認めない運用を徹底するよう求める。

4. 人事

(1) 日本文学専攻言語・文学コースには古典文学・近現代文学・日本語学の専任教員がそれぞれ2名ずつ配属されているが、古典文学担当教員を1名増員させること。他大学の日本文学系の学科・専攻では、古典文学担当教員として上代・中古・中世・近世の各時代で1名以上の教員が置かれるのが一般的であり、本学の2名というのは少なすぎて卒業論文指導等に支障が生じている。また、入試の古文の出題のためにも、古典文学担当教員の充実化は必須である。参考までに、関関同立における分野別教員比率を以下に示す。

関西大学文学部国語国文学専修：古典5名・近現代2名・日本語3名

関西学院大学文学部日本文学日本語学専修：古典3名・近現代2名・日本語2名

同志社大学文学部国文学科：古典7名・近現代3名・日本語2名

立命館大学文学部日本文学研究学域：古典4名・近現代5名・日本語2名・他2名

(2) 日本文学専攻の教員のうち、佐藤秀明教授と奥泉光特任教授が2021年度で定年を迎えるが、いずれも2022年度に後任教員を補充すること。奥泉特任教授は以前は国際人文科学研究所の所属であったが、同研究所の廃止にともない日本文学専攻に移籍してきた。特例措置であったとはいえ、移籍後は日本文学専攻の既得の教員枠となっており、退職後にこの枠を奪うことは同専攻教員の負担増に繋がり、労働条件の不利益変更にもなりうる。最低でも特任教員枠を維持し、特任での採用が難しければ専任枠に変更して後任を補充すること。なお、(1)で要求している古典文学担当教員の採用を、この枠で行ってもよい。

(3) 舞台芸術専攻においては、より安全かつ潤滑な実学教育を行うために、専任の技術監修技師を要求する。

(4) 文化・歴史学科においては、2019年度末に退職した山下雅之教授の後任補充を要求する。学科の定員が変わらないのに、後任採用を認めないことで、現場の教員の負担が増加している。山下ゼミは、毎年希望者が多い人気のゼミであり、山下教授の専門である現代文化研究やマンガ研究の需要は極めて大きかったため、学生のニーズに応えられない状態が生まれている。文化・歴史学科は、歴史から現代文化まで幅広く学べることが特徴で、他大学の歴史学科との差異をアピールできる。その意味で、現代文化を専門とする専任教員の後任採用には、学科の志願者を増やす効果が期待でき、大きなメリットがある。また、総合文化研究科文化社会学専攻現代文化学コースの看板科目であり、教職科目でもある「現代文化特論 AB」は、山下教授の退職後は不開講が続き、総合文化研究科として適正な状態にあるとはいえない。このような状態の改善は喫緊の課題であり、以上の客観的な事実をもとに、後任採用を検討することを求める。

5. 裁量労働制

(1) 貴法人は裁量労働制の導入を進めているが、導入の際には研究以外の業務を所定労働時間の5割以下に削減することが適用要件である。授業準備・成績評価・学生対応を含めれば、授業に費やす時間は実際の授業時間の2~3倍はかかる。2倍と見積もったとしても週5コマで $5 \times 1.5 \times 2 = 15$ 時間となり、週7コマ担当したら他の校務に充てる時間はない。よ

って、増担コマの最小化の実現と校務の合理化・削減は必須である。

(2) 裁量労働制の導入後は、各種委員会を学部の裁量で大幅に削減すること。本組合は、委員会業務が裁量労働制の対象となる業務とは考えておらず、また、委員会業務によって裁量労働制の適用要件を満たすことができないからである。教務委員会等、教育の現場を知る者でなければ務まらない委員もあるが、必ずしも教員が担当する必要のない委員会も多い。教員でなければできない委員にしても、教員の負担を削減するための人員（事務職員あるいは助手）を配置することで、適用要件を満たすよう努めること。

(3) 高校訪問、出張講義、教育実習訪問指導、学芸員実習挨拶、オープンキャンパス、近大フェア、教員免許更新講習等の業務の停止、あるいは大幅削減を求める。仮に、これらを削減する見通しがなく、従来通り行くとすれば、どのように裁量労働制の適用要件を満たすつもりなのか説明せよ。

(4) 研究以外の業務を引き受けることで研究時間の確保が難しくなる場合、業務を辞退する裁量を保障すること。

回答は一週間以内とする。

以上